

動的緩和と技術経営戦略

中村 潤^{*1,2}

Abstract: 既成概念を壊し、構成要素を組み替えることによって、潜在ダイナミクスを表出化させる仕組みを構築した。その効果はプレイヤーにとってこだわりを捨てて新しい文脈に気付いていく、いわゆる動的緩和を促す。この仕組みを技術経営戦略に応用する展望へと考察し、同質化に陥る競争の群れからの脱出を探る。

Keywords: dynamic relaxation, illumination, representational change

1 発表趣旨

かつて3億5千万台を出荷し一世を風靡したウォークマンから、いまやネットワークと連携する iPod の時代となり、更に医療などの現場に裾野を広げたタブレット型へのビジネス展開が進んでいる。ソニーの旧ウォークマン部隊は、「音質のよさ」や「バッテリーの待ち時間」「防水加工」などの音質やデバイスの機能にこだわっていたが、人々が当時求めていたのは、実はインターネットと連携した新たな生態系にトータルに配慮したできの良さであった[1]。

研究開発の現場では、自社製品を一生懸命良くしようと日夜努力している。しかしながら、実は、競えば競うほど、競合製品と同質化してしまうのである[2]。トヨタと日産でどれほどの製品に差異を感じるだろうか。競争が激しいミネラルウォーターの市場では、アルカリイオンからライムのフレーバーまで幅広く種類が豊富ではあるものの、いまや消費者の選択肢は無関心になってはいないだろうか。更にやっかいなのは、ユーザーの潜在ニーズが市場調査では簡単につかめないことにある。

いま、世の中で求められているのは、1)人がまだ具体的にイメージしていない潜在ニーズを掘り起し(What)、2)いち早く市場投入する仕組みを構築すること(How)、にある。本研究は前者の基礎研究と位置づけ、固着する自己を認識し、そこから脱却する動的緩和プロセスに着目している。その効果は、自分の思考変化に気づくばかりではなく、アウトプットに対して第三者が「おお、なるほど」と思ってもらえることにある。

そのためには、第一に、多面的な見方を捉える環境が必要である。例えば、圧力センサーという要素技術は、車載用電子制御系を認識するのか、Wii Fit のマットで用いるようなバランスチェックの測定と

認識するのか、によって潜在する市場は異なる。勢い、従前の製品セグメントの尺度に固着してはならなくなる。この認識の転換には、構造的な類似性を類推する高次認知機能 [3] が有効と考えている。

第二に、幾つかの要素で構成される既成概念を所与に、その構成要素を組み替えることにより、新たな潜在ニーズの発見を促すことである。多義性のある言葉(先の例では要素技術)であれば、組み合わせは類推次第で幾パターンかを可能とする。そのとき、「おお、なるほど」と思ってもらえる鍵は、既成概念から如何に距離のある新たな概念へと転換し表現力を発揮できるかにかかっている。

T パズルの実験[4]で分かったことは、固着とその緩和という概念を用いて洞察問題解決を定式化し、制約によって引き起こされるインパスの状態から制約が緩和されることによりひらめきが生じることであった。ここで図形から多義性のある言葉へと応用し、新たな着眼点を見出す仕組みを導入することで、競争の群れから脱する技術経営戦略が見えてくる。

すなわち、競合他社と同じ尺度にいる暗黙の前提にもとづくコンセプト設計を行うのではなく、自社のコアな要素技術を軸に概念構成の分類方法を変え、カテゴリーを転換し、潜在する市場を定義することにある。

参考文献

- [1] 辻野晃一郎：グーグルで必要なことは、みんなソニーが教えてくれた、新潮社、2010。
- [2] Y.Moon, “*Different: Escaping the Competitive Herd*”, Crown Business, 2010.
- [3] K.J. Holyoak and P. Thagard, “*Mental Leaps, Analogy in Creative Thought*”, MIT Press, 1995.
- [4] 開一夫, 鈴木宏昭：表象変化の動的緩和理論 洞察メカニズムの解明に向けて, 認知科学, 5(2), pp.69-79, 1998.

*1 金沢工業大学大学院 ビジネスアーキテクト専攻, 〒105-0002 東京都港区愛宕 1-3-4, e-mail: jyulis@gmail.com

*2 ボルボグループトラック・アジア部門 戦略室 UDトラック株式会社 企画室, 〒362-2308 埼玉県上尾市大字 1-1